

令和5年産さくらんぼの作柄予想について

1 作柄予想

○予想収穫量は13,200トンで、作柄^{※1}は「平年並」。

- ・前年(12,400t)に比べ800t多い 106%
- ・平年(13,400t)に比べ200t少ない 99%

○3月下旬、4月上旬の低温・降霜の影響で、園地や樹によって着果にばらつきがみられる。開花期間中の気象変動は大きかったものの、多くの園地で結実確保対策が実施されたことなどから、県全体では、平年並みの着果量が確保されている。

【前年収穫量】12,400t 【平年収穫量】13,400t(過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値)

※1 作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

2 作柄調査の概要

- (1) 調査日：令和5年5月16日(火)
- (2) 調査園地数：48園地
- (3) 調査結果
 - ・花束状短果枝当たりの着果数^{※2}：1.8果(前年1.8果、平年:1.9果)

3 収穫盛期の予想

- 「佐藤錦」：6月13日～17日頃(平年より5～7日早い)
「紅秀峰」：6月20日～25日頃(平年より5～7日早い)

4 「やまがた紅王」の着果状況

○降霜の影響で園地や樹で着果にばらつきがみられているものの、結実確保対策が徹底されたことなどから、目標とする収穫量20tは確保される見込みである。

5 今後の対応等

- 着果量の多い園地での摘果作業の早期実施、適切な着色管理や適期収穫など、高品質生産・出荷に向けて、指導を徹底する。
- より精度の高い作柄情報を発信するため、5月下旬に補完調査を実施し、果実の肥大や裂果の状況、最新の収穫出荷時期の見通し等を消費地市場へ情報提供する(6月2日公表予定)。

※2 「花束状短果枝(かそくじょうたんかし)当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼ぶ。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているため平均着果数は2果となる。

【 参 考 資 料 】

◇ 調 査 地 域 と 園 地

県内主要産地の11ブロック、48園地（栽培面積が概ね200～300haになるようにブロック分け）

- 上山・山形南部 4園地（山形市、上山市）
- 山形北部・西部 4園地（山形市、山辺町、中山町）
- 天童東部 4園地（天童市）
- 天童西部 4園地（天童市）
- 西村山北部 4園地（寒河江市）
- 西村山西部 4園地（寒河江市、大江町）
- 西村山東部 4園地（寒河江市、河北町）
- 村山 4園地（村山市）
- 東根東部 4園地（東根市）
- 東根西部 4園地（東根市）
- 南陽・米沢 4園地（南陽市、米沢市）
- 紅秀峰 4園地（上山市、天童市、寒河江市、東根市）

◇ さくらんぼの結果樹面積・収穫量の推移

区 分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
結果樹面積	2,910ha	2,900ha	2,900ha	2,890ha	2,870ha	2,860ha	2,840ha	2,830ha	2,800ha	2,790ha
収 穫 量	13,500t	14,500t	13,200t	15,000t	14,500t	14,200t	11,900t	13,000t	9,160t	12,400t
10a当たり収穫量	464kg	500kg	455kg	519kg	505kg	497kg	419kg	459kg	327kg	444kg

※ 資料は、果樹生産出荷統計（農林水産省）